

# 有機技術通信

## トピックス

- 第2回研究会（公開セミナー）を開催
- 「農を変えたい！全国運動」全国プレ大会in長沼 開催
- 「NPO法人有機農業技術会議」認可
- 中米・カリブ地域の農業指導者が有機農業を研修
- 国、都県の研究者が有機農業の研究会を開催
- 有機農業大学講座&第3回研究会（公開セミナー）のお知らせ

www.ofrc.net

特定非営利活動法人  
有機農業技術会議 事務局  
発行責任者：藤田 正雄

## 第2回研究会（公開セミナー）を開催

9月22日、京都市のキャンパスプラザ京都で第2回研究会「有機農業の新規就農を考える」（主催：有機農業技術会議）が開催され、関西圏の新規就農希望者ら71名が参加した。

当技術会議西村代表のあいさつのあと、中島副代表から、有機農業推進法と国の有機農業推進の基本方針（ともに、第2回研究会資料に掲載）を引用しながら、有機農業技術の体系化や新規就農者の支援に官民が協力して行えるようになったことを紹介した。

有機のがっこう「土佐自然塾」塾長・当技術会議理事の山下一穂さんは、11年前にご自身が新規就農された経験と「土佐自然塾」の2カ年の塾生の様子を紹介された。そして、有機農業で新規就農するには、技術力とマーケティング力（信頼＝ほんとうの付加価値を説明できる力）の重要性を強調された。

今年3月、京都府南丹市に新規就農された中村新さんは、就農に至った経緯、3月からの畑の様子と畑での発見などを紹介された。農業経験のないなかで有機農業で就農するにあたって、静岡県のMOA自然農法大学校専攻科にて、寮生活をしながら1年間学んだことが、畑で起こる様々なできごとに、いかに対応すべきかを迫られたときに大変役に立ったこと、新規就農には就農先の理解が欠かせないことを強調された。

京都府農業会議の平尾幸一さんは、全国および京都

府の新規就農者、新規就農相談の動向を、調査データをもとに紹介された。特に、有機農業で新規就農する場合、地方自治体に育成システムがなく、意欲があっても就農する足がかりもない現状を具体的に紹介された。そのなかで、行政として支援体制を整えながら、有機農業実施者のネットワーク化や暮らし、生き方としての有機農業の裾野を広げる活動を進めようとしていることを紹介された。

総合討論では、新規就農者には、農地、住む家がない、さらに技術の未熟さ、農産物の流通など、有機農業を志す新規就農のきびしい現状が指摘された。有機農業推進法に謳われている官民協働による現況の打開が望まれる。

このほか、有機JAS認証制度の問題点、有機農業推進法を受けた来年度の国の施策などについても活発に論議された。

（研究会の資料は、www.ofrc.netから見られます。）



講演する山下一穂氏

会場風景

## 「農を変えたい！全国運動」全国プレ大会in長沼 開催

来年3月に北海道の酪農学園大学で開催する「農を変えたい！全国集会」に先駆け、北海道の長沼町にてプレ集会在が、8月18-19日に開催された。地元の方を中心に350名の参加者があった。講演と分科会が行われ、北海道から日本の農業を変えようという力強いメッセージが発信された。

基調提案として自然と農業が共生するこれからの日本の農業の在り方についてや、有機農業において北海道が先駆者となり自立していく熱意、有機農業と慣行農業の本質的な違いや自然観察の重要性などが述べられた。

なお来年3月、当技術会議では全国集会に合わせて第2回総合研究会を開催する。

## 「NPO法人有機農業技術会議」認可

去る6月17日の設立総会を受けて、長野県に申請した「特定非営利活動法人有機農業技術会議」が9月18日付けで長野県知事より認証されました。今後、責任の所在を明確にしたNPO法人として、有機農業の技術確立と人材の育成に努力します。ご協力をお願いします。

## 国、都県の研究者が有機農業の研究会を開催

9月6日、関東東海・土壌肥料部会秋季研究会（事務局：独立行政法人中央農業総合研究センター）では、「有機農業の推進と土壌肥料研究の課題」について愛知県蒲郡市で開催し、独法試験研究機関および13都県の農業試験場研究者ら約170名が参加した。このなかで、当技術会議中島副代表は、「有機農業技術論の骨

格-先進農家の取り組みから見えてきたこと-」について講演をした。他に、農林水産技術会議事務局の松本課長補佐、北海道立中央農業試験場の中辻土壤生態課長、福島県農業総合センターの酒井有機農業推進室長からも講演があり、有機農業への理解と試験研究の糸口について活発に意見交換がなされた。

## 中米・カリブ地域の農業指導者が有機農業を研修

国際協力機構（JICA）では、中米・カリブ地域小規模農民支援有機農業技術普及手法コースの研修を全国各地で行った（6-10月）。その中で、地域の有機物資源の有効活用を考慮した持続的農業技術および技術普及手法を習得の一環として、堆肥・育土研究所（橋本

力男＝当技術会議理事、第3回研究会講師）にて、9月19日に有機農業の堆肥づくりの講習が行われた。



橋本さんと研修生

## 有機農業大学講座&第3回研究会（公開セミナー）

有機農業を進めていくとき、そもそも有機農業とはどういう農業なのか、化学肥料と農薬を使わなければ有機農業なのか、などなど質問、疑問は尽きません。しかし、有機農業推進法が昨年12月に成立した今、有機農業を軸とした農業に転換して、食料自給率の向上を図るときと考えると、ここに大学講座&研究会を開催します。

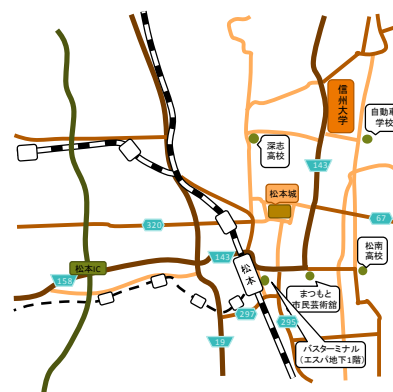
日時 2007年11月23日・24日

場所 信州大学理学部 講義棟 1階 1番教室

参加費 23日券・24日券 各2000円、全日券3000円、懇親会費3000円  
賛助会員は懇親会費以外1000円引&研究会無料  
24日券・全日券に第3回研究会参加費は含まれます

会場案内

JR松本駅正面口を出て向側（右前方）エスバ地下1階の松電バスターミナル6番線から「信大病院経由浅間温泉行き」に乗り、「信州大学前」下車。所要時間約20分。大学北に市営駐車場有。



内容

23日	10:00~10:30	開講式
	10:45~12:15	吉田太郎「キューバの有機農業」
	13:30~15:00	西尾道徳「堆肥の効果と施用量の概算」
	15:15~16:45	実施者による実践報告（予定3名）
	17:15~19:30	懇親会
24日	9:00~10:30	稲葉光國「いのち育む有機稲作」
	10:45~12:15	藤山静雄「生態学からみた有機農業」
	13:30~16:30	第3回研究会「堆肥・土づくりを考える」 橋本力男、尾島一史、酒井信一

定員は各170名です。11月20日までE-mailまたはFAXによる事前申し込み受付をしております。。希望日（23日・24日・全日・懇親会）、氏名（所属）、所在都道府県、連絡先を添えて申込みください。料金は当日支払い受けます。詳しくはウェブ上（www.ofrc.net）にてご案内しております。定員までは当日参加も可能です。

NPO法人有機農業技術会議 事務局

〒390-1401 長野県東筑摩郡波田町5632（財）自然農法国際研究開発センター農業試験場 内

E-mail: office@ofrc.net

FAX:0263-92-6808

Website: www.ofrc.net